



国労西日本

国労西日本本部
NO.157

発行責任者 田中 守
編集責任者 羽柴 二郎

安全を守る 職場風土へ 変える先頭に

貨物会社 年末手当回答

貨物会社 要求にほど遠い回答に怒り！ 年末手当回答 2.0ヶ月

貨物会社は11月25日、
「2008年度年末手当の
支払いに関する申し入れ
(闘申3号)」に対する回
答を行いました。

回答は、「基準内賃金の
2.0ヶ月分、12月9日支
払い」であり、労働者や家
族の切実な思いを踏みにじ
る低額回答です。

この回答を受けて、組合
側は、
すべての組合が2.7ヶ
月以上を要求している中で、
切実な生活給としての社員
・家族の思いに応えたもの
とはなっていない。200
8年度の間決算は、対計
画をシヨートしたものの、
対前年を12億円上回る経常
利益を確保している。社員
と家族の生活実態を顧みな
い低額回答に対して強く抗
議する。
そもそも事業計画の収入

目標は、「経常利益25億円」
を確保するために、経費の
増に対して高めに設定され
た計画値であり、計画未達
の責任を社員に押しつける
ことは承服できない。社員
は、厳しい労働環境と労働
条件の中でも、計画の達成
に向け日々奮闘している。
計画との収入乖離を主張す
るのであるなら、そのこと
はまさに経営側の責任であ
る。

社員の生活安定と志気の
高さこそが、「輸送の安全」
の確保には不可欠である。
本日の回答にあたっての会
社の姿勢には厳しさのみを
強調するものとなっており、
疑問を呈しておく。
以上を強く主張し、会社の
姿勢を批判しました。
これに対して会社側は、
主張は受け止めるが、下
期についても引き続き厳し

い状況にある。
回答は、会社として最終
判断であり最終回答である。
と回答しました。
国労は、「本日の回答は、
これまでの交渉経過、社員・
家族の生活実態から見ても
極めて不満の残る回答であ
る」と主張し、取扱いにつ
いては「持ち帰り検討」と
しています。

連続低額回答

社員の生活は限界に！

連続した超低額の期末手
当やベアゼロにより、貨物
会社で働く社員と家族の生
活は限界まできています。
毎月の賃金が低いのを期末
手当で補っているのが貨物
会社社員の生活の実情です
が、これだけ超低額の手当
が続けば、毎月の家計の赤
字や生活費の補填にすらな

らず、社員の生活は一層困
難になるのは明らかです。

要求に応える体力は

充分可能！

貨物会社は、中間決算で
は計画での経常利益25億円
の目標を変えず、モーダル
シフトの手応えもあり増収
も伴っていると社長会見で
述べています。
また、制度改正による減
償却費の増、各旅客会社
の安全投資等の修繕費増に
よる線路使用料増、自社の
車両修繕費増などは事業計
画に見込まれているもので
す。大きな災害がないなか
で、災害対応費等は残って
います。

さらには、今後、コンテ
ナ貨車の新製に40億円投入
するとしています。総物
流の減少が想定されるなか
でこの計画は緊急性があり
ません。この投資時期をず
らすことで、私たちの要求
に応えることは充分可能で
す。
社員一人の売上高は、こ

の20年間で収入が300億
円減っているにもかかわら
ず、1,650万円から2,
421万円と大きく働き度
合いが高まっており、今こ
そ社員に対して還元するこ
とが求められています。

収入未達を理由に、社員
に責任を押しつけることは
断じて許されません。会社
は、経営の厳しさだけを強
調するのではなく、今まで
我慢してきた社員とその家
族のことを少しでも考え願
いにこたえる姿勢を示すこ
とが必要です。

貨物会社は

今こそ社員に還元を！

この間、貨物会社で働く
社員の労働実態は、夜間・
屋外を中心とした過酷な労
働環境にあり、慢性的な要
員不足による休日労働の拡
大や年休の失効など、生活
と健康を脅かし、「安全・安
定輸送の確保」に大きな影
を落としています。また、
賃金・生活実態は、9年連
続ベア・ゼロ、期末手当の
連続低額回答などにより、
家計の実態はますます厳し
さを増している現状となっ
ています。

貨物会社が今やらなけれ
ばならないことは、社員の
生活改善に目をむけること

です。会社にとって最重要
課題となっている「安全と
サービス」の確保・向上は、
働く者の意欲と自覚が発揮
できる環境でなければなり
ません。今こそ、社員・家
族の労苦に報いるため貨物
会社として決断をするべき
であることを強く求めます。
そして、これからも「安全
を第一」に、頑張つて貨物
会社で働き続けようという
気持ちを持てる回答を貨物
会社は行うべきです。私た
ちは、このような超低額回
答に対して、強く抗議する
とともに、「3.5カ月分支
払い」の再回答を強く求め
ます。
国労西日本本部は、「指
示21号」で貨物本社及び貨
物関西支社に抗議行動を行
う事を指示し、抗議文を送
付しました。

そしき拡大速報

近畿地本大阪地区本部
西労組から10月1日付
「最後は国労で頑張りたい！」

日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長 小林 正明 殿

2008年11月26日

国鉄労働組合西日本本部
執行委員長 田中 守

年末手当の「超低額回答」に抗議し 「3.5カ月分」支払いの再回答を強く求める

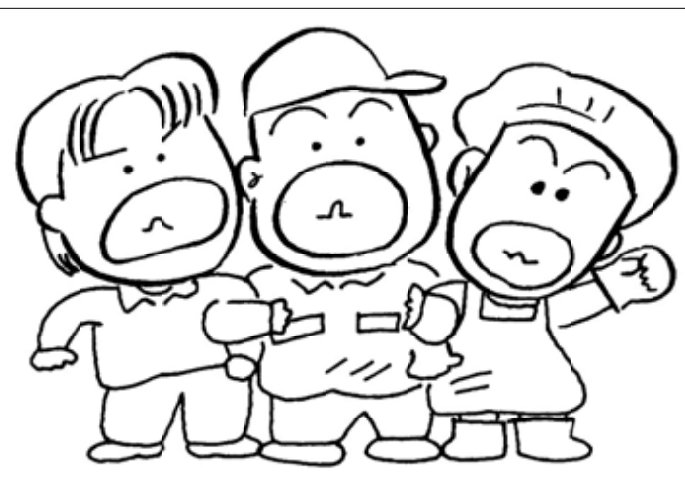
11月25日、貨物会社は昼夜を問わず過酷な労働条件の中で必死に業務に励む社員、そして9年連続の「ベアゼロ」による低賃金の中で、厳しい生活を強いられてきた社員とその家族の気持ちと生活実態を顧みず、我々の要求と大きく乖離した「2.0ヵ月、12月9日支払い」という、またしてもJR各社の中で最低の超低額の年末手当支払いを回答した。

連続した超低額の期末手当やベアゼロにより、私たちの生活は限界まできている。毎月の賃金が低いのを期末手当で補っているのが貨物会社の社員の生活であるが、これだけ超低額の手当が続けば、毎月の家計の赤字、生活費の補填にすらならず、社員の生活は一層困難になるのは明らかである。

会社は、中間決算では計画での経常利益2.5億円の目標を変えずモーダルシフトの手応えもあり増収も伴っていると社長は会見で述べている。収入未達を理由に、より社員に責任を押しつけることは許さない。会社は、経営の厳しさだけを強調するのではなく、今まで我慢してきた社員と家族のことを少しでも考え願いにこたえる姿勢を示すことが必要である。労働実態は、夜間・屋外を中心とした過酷な労働環境にあり、慢性的な要員不足による休日労働の拡大や年休の失効など、生活と健康を脅かし「安全・安定輸送の確保」に大きな影を落としている。又、賃金・生活実態は、9年連続ベア・ゼロ、期末手当の連続超低額回答などにより、家計の実態はますます厳しさを増している現状となっている。

このような状況のもとで、貨物会社が今やらなければならないことは社員の生活改善に目をむけることである。会社にとって最重要課題となっている「安全とサービス」の確保・向上は、働く者の意欲と自覚が発揮できる環境でなければならない。今こそ社員・家族の労苦に報いるため貨物会社として決断をするべきであることを強く求めるものである。そして、これからも「安全を第一に」頑張って貨物会社で働き続けようという気持ちを持つて回答を貨物会社は行うべきである。私たちは、このような超低額回答に対して、強く抗議するとともに「3.5ヵ月分支払い」の再回答を強く求めるものである。

以上



は、全区所一斉に実施する。西日本全体で25名の要員規模となる。このことによつて、労働時間や特休日労働を増やしていくものではない。従来からの議事録に近づけていくとの考えを意識して取り組んでいく。大前提は要員需給の安定化。今年度下期から対策を行っているが、21年度をふまえて、行路の移管、要員の異動を含めて対応していく。あわせて、新規の養成に必要な業務改善策を行っていく。等の、考えを明らかにしました。

西日本本部は、この提案を受け、「乗務員の要員需給は非常に厳しい状況である。長く待たされた指定休日の段階的な縮小であるが、今後早い時期にすべての指定休日を解消すること。別途申し入れを行う」とし、「申9号」で西日本会社に申し入れました。

今回の提案は、会社の言う「劇的な変化」とはほど遠いものです。また、西日本会社は「22年以降の詳細な需給については冒通せるものはない。」との考えを明らかにしています。

会社の責任において要員需給安定化の対策を着実にを行うこと、労働条件の改善にむけた運動と交渉を今後とも強化しなければなりません。

がん予防・検診から治療まで、すべてをカバー！

健康支援金をプラス！
通院も入院も同額保障！

新登場！
新健康応援団MAX
メディカルチェック+

「がん」の生涯保障 (21世紀がん保険)	
BESTプラン メディカルチェックプラス1倍	ご本人の保障
初めて診断されたとき	がんの場合 100万円 上皮内新生物の場合 10万円
入院したとき	1日につき 10,000円
手術したとき	1回につき 20万円
通院したとき	1日につき 10,000円
高度先進医療を受けたとき	技術料に応じて 6~140万円
がんで死亡したとき	10万円
健康支援金	たとえば、がん検診などのメディカルチェックにお応えください。生存されている場合 3万円 3年ごとに

がん以外の「病気・ケガ」の保障 (特約MAX21終身タイプ)	
入院給付金日額5,000円コース	ご本人の保障 (本人型)
病気で入院したとき	通算1,804日まで (1日の入院については最大14日まで) 1日につき(1日目から) 5,000円
ケガで入院したとき	1日につき(手術の種類により) 5・10・20万円

●保険料一部抜粋 【保険料払込期間:終身】団体(集団)取扱・月払

<21世紀がん保険> BESTプラン メディカルチェックプラス1倍 (ご本人コース)				
契約年齢	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,307円	4,393円	5,997円	8,023円

<特約MAX21終身タイプ> 入院給付金日額5,000円コース (本人型)				
契約年齢	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	2,230円	2,980円	4,250円	6,295円

●募集代理店
アベニール 株式会社
TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

「生きる」を創る。
Aflac アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)
東京第三営業本部 第三支社
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1889 Fax.03-3344-4038